

月刊 エルダリープレス

～シニアの快適生活を応援する～ シニアライフ版

第10号

2015年(平成27年) **6月号** 第10号

(株)高齢者住宅新聞社 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15
TEL.03-3543-6852(編集部) 発行人 高橋良江
http://www.koureisha-jutaku.com

— Elderly Press Newspaper —

(25) 2015年6月号(5月15日)

エルダリープレス—シニアライ

第5回 車いす対応の座席予約

介護旅行をすすめていく上で困っていることがあります。それは、時代にそったサービスのインフラが追い付いていないことです。

例えば介護保険制度と同じ年にできた交通バリアフリー法は、この15年間で何度か改正され、駅や空港ターミナルのバリアフリー化は格段に進みました。公共交通機関は、障がいを持つ人やお年寄り、さらにはベビーカーを使う人や大きな荷物を抱えた旅行者に優しいサービスを心掛けていますという意思表示だと思えます。

しかし、駅舎の先ではどうでしょうか。



▲姉の待つふるさと秋田で「なまはげ」と記念のポーズ

電話一本 駅へ行くだけ

安全! 快適! **介護旅行**
SPIあ・える倶楽部社長 篠塚恭一



1961年千葉県生まれ。大手旅行会社の添乗員を経て91年(株)SPI設立、ホスピタリティ人材の育成派遣に携わる。95年よりトラベルヘルパーの育成をはじめ、旅のユニバーサルデザイン、介護旅行「あ・える倶楽部」の普及に取り組む。06年NPO法人日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会設立。著書「介護旅行に出かけませんか」(講談社)他。(株)SPI あ・える倶楽部代表取締役社長。NPO日本トラベルヘルパー(外出支援専門員)協会理事長

新しい列車にも車いす対応の座席が増え喜ばれています。ところが、その車いす席の予約購入手続きは、ほとんど改善がみられないままです。

先日、車いすユーザーの知人が、山形県のJRではすべてのみどりの窓口で、車いす対応の座席予約が電話で可能となったといいます。上京のために新幹線を使っていた彼は、それまで利用の都度、みどりの窓口へ行き空席確認をしてから予約を入れてもらい、結果を待って再び乗車券を購入するためだけに駅へ出向く

という手続きをとらされてきました。そもそも外出が困難な障がいを持つ人が、何度も出かけなければ切符一枚買えないということなのです。

それが電話予約が可能になったおかげで、希望の列車を予約しておけば、乗車にあわせて駅へ行くだけでよくなり、とても便利になったと喜んでいました。同じことを首都圏でもやってほしいとJRに頼んでいます。まだ応えてはくれません。

介護旅行のユーザーには車いすで移動を希望するお年寄りの多いので、家族やトラベルヘルパーのような代行者は、同じ手続きをとらなければなりません。その都度、みどりの窓口へ並ぶ予約を入れ、席が取れたら再び購入に行くという繰り返しの生活が、少子高齢化が進む中、せっかくの法律もこのように一般の生活者が便利となるどころまで浸透させなければ、その意義は結果を示していないと思うところなのです。

商品・カタログ